



別科便り



コロナの終息は未だ先が見えませんが、城西大学では、対面授業の実施など、少しずつ学生生活が戻ってきています。オミクロン株の流行により感染者が増えている状況で、まだまだ油断はできませんが、一日も早く日常生活が戻ることを祈っています。



文化財・文化遺跡見学で日本文化を体験

文化財・文化遺跡見学Ⅱ（11/20）として、埼玉県比企郡小川町の伝統工芸について学んできました。



まず、小川町の地場産業として酒蔵、晴雲酒造さんを見学しました。晴雲酒造は1971年（昭和46年）に「手造り 晴雲」の製造を開始した酒造です。5代目社長の中山健太郎さんに日本酒の歴史から製造工程、杜氏の働き方まで説明



していただきました。

次に埼玉伝統工芸会館で紙漉きの体験をしました。小川町といえば手漉き和紙といわれるほど、和紙の伝統産業が有名で、「細川紙」はユネスコ無形文化遺産に登録されています。また、小川町観光協会で着物の着付けをしてもらいました。着物姿で埼玉県の伝統工芸品について学びました。初めての着物は歩くのも苦労しましたが、とてもいい思い出になりました。



第29回日本語スピーチコンテストをオンラインで実施



2020年度はコロナウイルスの感染拡大により実施できませんでしたが、今年度はオンラインで日本語スピーチコンテストを実施しました。今回から2部制とし、日本での上留期間が3年以上の学生も参加できるようになりました。多くの方にオンラインで視聴していただき、例年以上の方にコンテストを見ていただけました。最優秀賞の城西大学学長賞は、城西大学経営学研究所の劉元昌さん「生きている限り勉強は続ける」が受賞しました。スピーチコンテストの動画は別科HPでご覧いただけます。



QRコード



企業見学で地域の産業を見学

今年度の企業見学は、地域の産業について学びました。1回目（12/20）は「うちわ工房しもの」で越生うちわについて、竹から団扇ができるまでの工程、各名産地の団扇の違いなどを学び、団扇作りも体験しました。



2回目（1/13）は川越で陶芸の歴史について学びながら、絵付け体験をしました。「陶舗やまわ」は小江戸と呼ばれる川越の古い街並みにある蔵造りの建物です。初めての絵付けで出来上がりが楽しみです。



メッセージ

別科長 澤野勝巳

2年ほど前から始まったコロナの蔓延防止のために、皆さんも不自由な生活を強いられていることと思います。そんな中、2021年度別科生も卒業を迎えようとしています。感染予防を徹底し、授業を対面で行い、学外授業も実施できたことは別科生にとって良い思い出になると思います。皆さんも、この別科便りをきっかけに、城西大学で過ごした日々を思い出し、後輩のため、ぜひ今の別科を応援してください。



「別科便り」では、みなさんの近況を募集しています。卒業年度とできればお写真をメッセージとともに別科にお寄せください。よろしくお願いたします。

城西大学別科 E-mail : bekka@josai.ac.jp